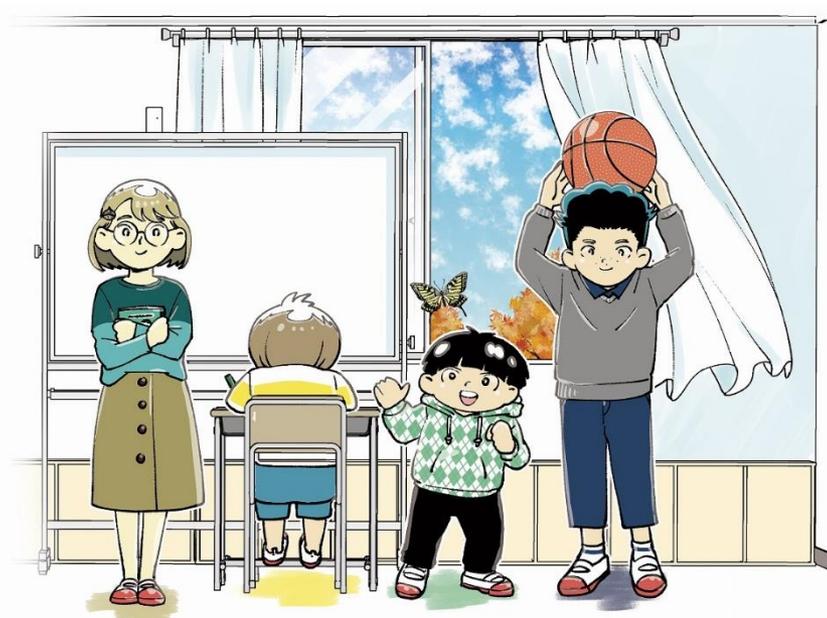


# 第2回 特別支援教育 職員研修会

誰一人取り残さず輝かせる教育の実現に向けて



日時 令和6年 12月 9日 (月)

15:30~16:50



新潟県立出雲崎高等学校

早速、質問です。

授業が始め始まって15分もたたない頃に、生徒Aが席を立って、近くの生徒B（常に仲の良い関係）のところに行き、勉強の邪魔を始めました。どう見ても、生徒Bは集中できず、困っている感じです。

このとき先生は、生徒Aをガツンと厳しく注意した方が良いのか、それとも優しく諭してあげた方が良いのか、さて、どちらでしょうか？

正解は

「これだけの情報では正しいやり方は決められません」です。

考えてみてください。

私たちが、発熱（現象）して病院に行ったときに、お医者さんは、すぐに注射（支援策）をしません。

発熱の原因を探るため、患者に質問したり、検査をして、発熱の原因を突き止めようとしています。そしておおよその目処がみついたら、それに応じた治療をはじめます。

この発想は教育においても同様に必要です。

そもそも学習意欲を引き出す授業になっているか、発達障害はないかなど、必要な情報を集め、それを分析してから支援策を作ることが求められます。

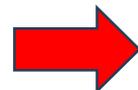
# 1 多様な生徒を具体的にどの様に支援すれば良いのか？

正しい情報を基に分析しないと  
支援策も作られない！

現象



支援策



自立

- ・ 学習意欲
- ・ 発達障がい
- ・ 不登校
- ・ いじめ
- ・ 校内暴力



- ・ 精神的な自立
- ・ 社会的な自立
- ・ 経済的な自立
- ・ 希望へのかがやき
- ・ ゆたかな情操

次のスライドを2枚見てください。

何か共通するところがありますか？

# 特別支援教育の推進への基本的な考え方 (文科省)

## 特別支援教育の理念

- ・特別支援教育は、
- ・障害のある幼児児童生徒の **自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する** という視点に立ち、
- ・幼児児童生徒 **一人一人の教育的ニーズを把握し、**
- ・**その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服する** ため、
- ・適切な指導及び必要な支援を行うものである。

# 不登校児童生徒の支援への基本的な考え方 (文科省)

## 基本的な理念

・不登校児童生徒への支援は、

・「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、  
・児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、**社会的に自立**することを目指す必要がある。

発達障害、不登校の両方に共通している考え方に気づきましたか？

それは「自立」を目指すということです。

誰一人取り残さない教育を実現することは、生徒一人ひとりを「自立型の人間」に育てていくことと、ほぼ同じ意味になります。

では、また質問です。

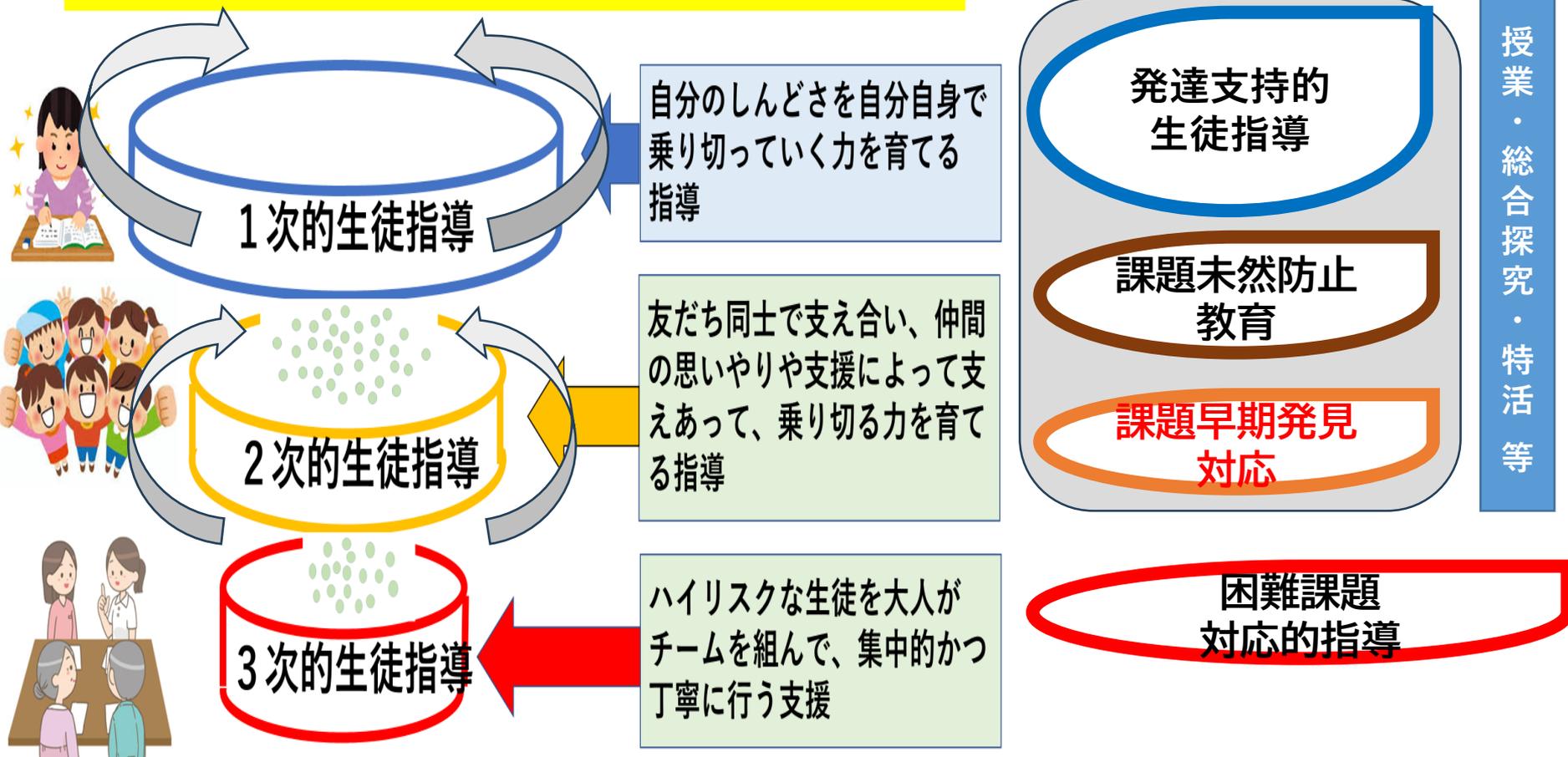
「どの様な教育が生徒の『自立』を促しますか？」

ヒントは「生徒指導提要（令和4年12月改訂）」に  
2軸3類4層構造という言葉で記されています。

そのイメージを次の図で感じてください。

## 2 生徒を自立させる教育(生徒指導)のあり方

### 1次的・2次的・3次的生徒指導



例えば、ハイリスクな生徒には、大人がチームを組んで集中的かつ丁寧に支援を行うことが大切です。しかし、これは「自立」からは少し遠い感じですか。

徐々に大人チーム支援から脱出して、友達同士で支え合い、仲間の思いやりや支援によって支え合い、乗り切る力を身につけると良いですね。

その様に、仲間で支える力を育てる生徒指導のことを2次的生徒指導と言います。

この発想は社会に出たときのことを考えると、本当に大切です。興味のある方は「ピア・サポート」で検索すると、深く学ぶことが出来るはずですよ。

さらに、1 次的生徒指導は「自分のしんどさを自分自身で乗り切っていく力を育てる」指導のことを言います。

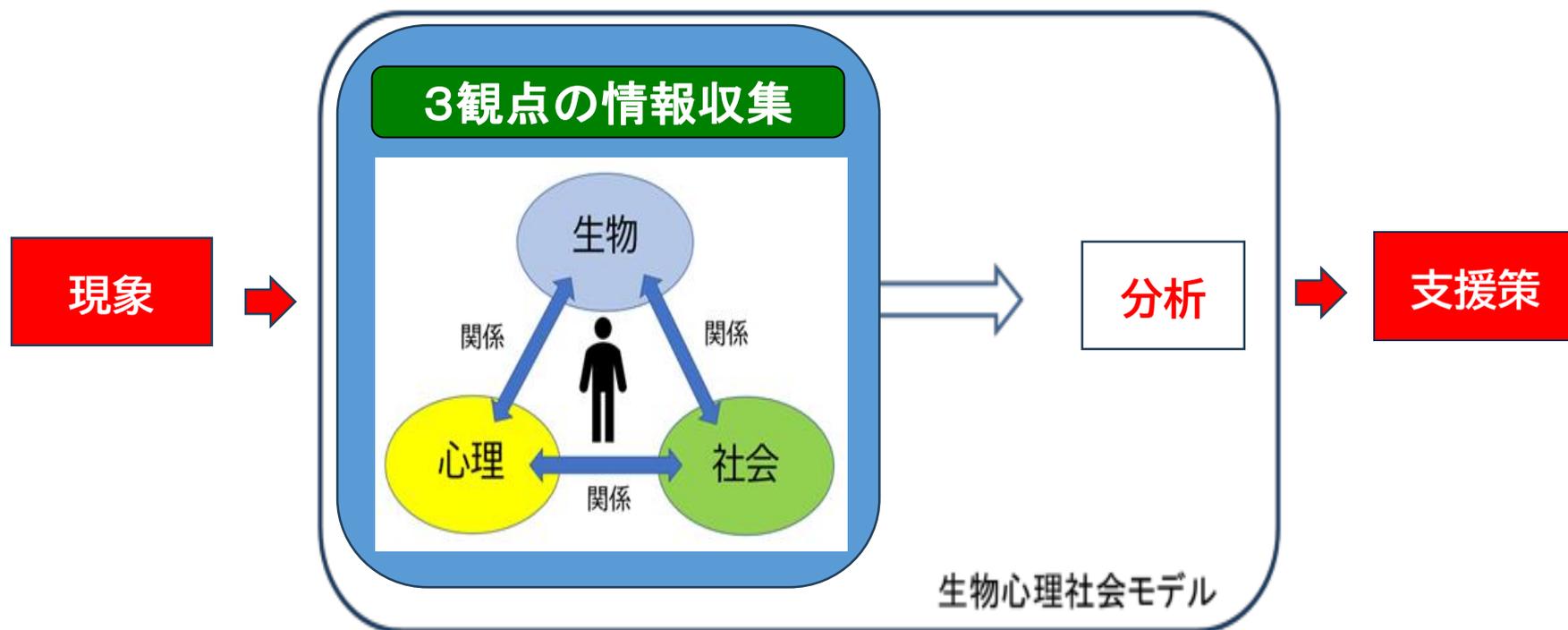
以上が先ほどの図の大切な考え方です。

(その他にも、大切な意味が沢山ありますが、すみません。省略します。)

# 支援策を作成するには「アセスメント」が必要

## BPSモデル（生物・心理・社会モデル）

- ・ 個人の分析 × 集団の分析
- ・ 教育・心理・福祉・医療等からの包括的アプローチ(チーム学校の必要性)



先ほど「現象からすぐに支援策は作られないので、情報収集して、分析する作業が必要です。」と述べましたが、この取組をアセスメントと言います。

生徒指導提要では「BPSモデル」を使ってのアセスメントが推奨されています。

これは生徒課題を、生物学的要因、心理学的要因、社会的要因の3つの観点から情報収集し、検討するものです。

次のスライドは、本校が情報収集をどの様に行っていくかの計画について、本校合格後から夏休み前までのおおよその流れを示したものです。

かなり丁寧に取り組んでいることを感じ取ってください！

## 主な情報収集と対応(例)

- **中学校情報** (各種数値、エピソード、生育歴 等)
  - **家庭環境調査票** (家族構成・家族関係 等)
- ↓
- **教師の観察** (生徒 (個×集団)、友人・保護者関係 等)
  - **アンケート用紙** (**アセス、B-SAFE、エゴグラム** 等)
  - **教育相談の実施** (**面談で、直接、本人から本音を聞く** 等)
- ↓
- **教務成績** (成績、出欠 等)
  - **保健室情報** (心身 等)
  - **検査結果** (必要に応じて：WISC-IV 等 実施)

※始めは必要最低限でよいので集め、その後、追加していけば良い。  
(仮説を基にした見通しを持って、取り組みを組織的に行っていく。)

当たり前の話ですが、一見、同じ様な現象を現す生徒であっても、その背景を分析すると、生徒一人ひとりを取り残さず輝かせる教育に向けた支援策は、個々、違ってくることも多いものです。

つまり、多くの情報を集め、幅広い専門家が集まって背景を的確に分析するほど、より良い支援策を作り出せるはずと考えています。

### 3 生徒が通う価値を実感できる「楽しい学校」づくり

#### ■社会モデル



新潟県立出雲崎高等学校では「アセス・B-SAFE」を活用しています。

またまた質問です。

「ところで、不登校はどうしたら解決していくと思いますか？」

普通に考えれば、子供が学校に行かないのは、学校が何かしらの理由でイヤだからだと思われれます。

それならば、子供が通いたくなる「楽しい学校」にした方が、不登校解決の最も近道かもしれません。

そのために、文科省はまずは、学校風土の把握に努めましょう！ということで、そのアセスメントツールを紹介しています。

本校では「アセス・B-SAFE」を採用しています。



# B-SAFE出力画面イメージ

## 1 学級の状態(能力や風土)がわかる

**いじめの立場もわかる**

例) 加害のみ、被害のみ、加害被害両方、どちらもなし、認知なしなど立場ごとの人数と能力や風土がどこに位置しているか一目でわかる



## 2 学級全体で注意すべき児童生徒が誰でもどこかが一覧でわかる

能力偏差値・支援偏差値は40未満の部分は赤色、30未満は灰色で塗りつぶしています。教師の認識とズレがないか個人を確認してください。

加害・被害頻度については、5回以上を5として、ネットのみ4行動、他は3行動の合計、つまり直接・間接は15が、ネットは20が最大値です。5以上の数値(平日5日毎日1回以上)を、注意喚起のために黄色で塗りつぶしています。個人を確認し、声をかけるなど配慮が必要です。

認知頻度は、「週に5回以上されている人は何人ですか?」と注意すべき人数で、のべ合計人数を示しています。いじめは教師が気が付かないので、この数値が多い個人を確認し、聞けるようでしたら話を聞くなどの対応が推奨されます。

番号	能力偏差値		支援偏差値		加害頻度			被害頻度			認知頻度		
	いじめ 経験能力	経験値	教師 サポート	本人 サポート	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット
1	52	55	49	47	0	1	0	3	2	0	3	1	0
2	62	50	54	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	69	59	49	41	2	0	0	1	0	0	3	0	0
4	59	59	59	62	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5	44	30	43	38	0	6	6	0	0	0	3	0	0
6	50	47	54	50	3	1	0	2	0	0	0	0	0
7	45	51	59	50	2	0	0	1	0	0	0	0	0
8	34	51	46	53	0	1	0	0	0	0	0	0	2
9	56	51	57	50	5	0	0	6	0	1	0	0	0
10	47	47	41	47	8	11	9	3	0	0	2	1	1
11	37	59	51	56	0	0	0	1	1	0	2	0	0
12	47	43	54	50	0	2	0	0	1	0	0	1	0
13	50	39	54	32	0	0	0	8	1	0	0	0	0
14	53	47	51	44	2	1	0	2	0	0	1	1	0
15	56	59	57	59	1	2	0	0	1	0	0	0	0
16	59	51	54	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	40	52	59	59	2	0	0	0	0	0	0	0	0
18	59	55	51	35	0	0	0	1	4	0	0	0	0
19	53	59	59	44	5	2	0	5	4	1	0	3	0
20	53	59	51	47	1	3	1	1	1	0	0	0	0
21	53	55	43	47									
22	47	47	46	44									
23	56	51	51	59									
24	40	43	36	44									
25	53	47	62	59									

**認知のゆがみ?**

クラスで目撃者も被害者も全然いないのに、一人だけ被害・目撃が多い場合など、敏感だったり認知のゆがみがある要配慮な児童生徒が見つかる可能性も!

公益財団法人  
学校教育開発研究所  
(AISES)

ホームページより  
引用

また、そのツールに加えて、今後、“エゴグラム”の活用も検討していきたいと考えています。

今回はそのために

エゴグラムを

- ① 生徒を自立させる教育教材にする
- ② 生徒理解のためのアセスメントツールにする

方法を研修していきます。



# エゴグラムについて押さえておきたいこと !

## 【1】今のエゴグラムがベスト

→ エゴグラムの形に良し悪しはない

## 【2】エゴグラムは変わる

→ (適応)はエゴグラムに現れる

## 【3】理想的なエゴグラムはない

→ 自己理解(気づき)→“自由な自分”へ

## 【4】教育との適合性が高い

- ① 生徒指導(自己指導能力育成)教育教材  
② 生徒理解のアセスメント・ツール

※ これ以降は、プリントを用いた演習を中心にします

「エゴグラムをやるよ！」と生徒に言うと、必ずの様に、次の様な質問があります。

「先生！ エゴグラムの質問に正直に答えると、自分のダメさがバレてしまうのではないか……と思って、つい格好つけてウソの回答をしてしまうような気がします、どうなんですか？」

気持ちは分かります。

それは、「理想の答えがあるのではないか！？」という思い込みからですね。

しかし、ご安心ください。

取り組んでみれば、すぐに分かりますが、先ほどのスライドの【1】今の答えがベスト！、【3】理想の答えはない！は、本当に本当です。

## 4-2 生徒指導（自己指導能力） 教育教材活用

### ・生徒の自己分析・自己理解

- ① 今の自分の特徴を短所ではなく長所へと意識する
- ② 今の自我のエネルギーのかけ方の課題を認識する
- ③ 今の自分と理想の自分の違いを認識する



### ・自分だけのオリジナル「自己指導能力育成計画」を作成 （ルーティン・チェック表に落とし込む）



### ・個別最適なオリジナルのルーティン・チェック表の実施 （習慣形成を図る = ところを強くする（心耕）） （夢・目標に取り組む = 自己肯定感）



### ・教育で生徒のWell-beingを生徒の当事者意識で図る

ここで、教育教材ツールとしての取組を紹介します。  
はじめにエゴグラムチェックリストを2枚ご用意ください。

## 方法

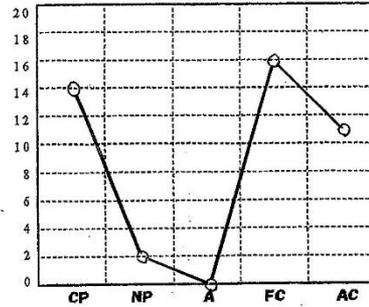
- 1) 1枚目には「いまの自分」で答えてください。  
※ネット検索でもエゴグラム用紙は入手できます。
- 2) 2枚目は「理想の自分」になりきって答えてください。
- 3) その2つの結果を重ねてください。

次のスライドを見るとイメージしやすいかもしれません。

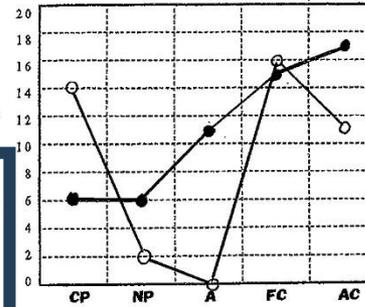
※今回、「過去の自分」は省略します。

自己分析・自己理解を促進し、より良い生き方のヒントを探ろう！

〔過去の自分〕 ※(11~12)歳頃を思い出して実施

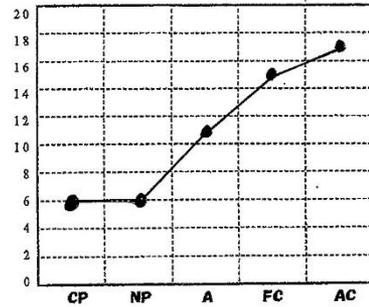


〔過去の自分〕と〔現実の自分〕の比較  
※このズレが、生きてきた成長の証

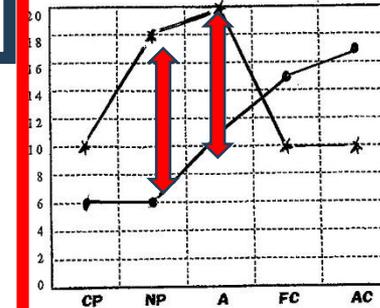


今の自分の  
特徴知る

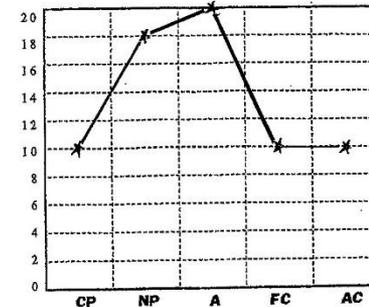
〔いまの自分〕



〔理想の自分〕と〔現実の自分〕の比較  
※このズレが、今後の生き方のヒントを与える  
→ルーティン行動にして取り組んでみようへ



〔理想の自分〕



いまの自分と  
理想の自分  
を比較し  
伸びしろを  
知る

## 方法

4) そして次からのスライド①、②、③により、用紙「エゴグラムから見た自分の特徴」を用いて、自己分析、自己理解を深めましょう。

5) その上で、そこに書かれていることをヒントとして、自分で自分を育てる方法を考えてみてください。

# ① 今の自分の特徴を短所ではなく長所へと意識する

## エゴグラムから見た自分の特徴

本来の働き		この部分が高い人の		この部分が低い人の		この部分を高めるには
		〈にじみ出る長所〉	〈陥りやすいワナ〉	〈にじみ出る長所〉	〈陥りやすいワナ〉	
CP	〈批判的な親〉の心 良心的に行動しようとしたり、理想を追求しようとする部分。規則を守ったり、正しく行動することを、自分自身や周囲の人、あるいは社会に要求する。	理想を追求する／責任感が強い／真面目／良心的／けじめがある／イエス・ノーをはっきり言える／自信がある／押しが強い／すじを通す	タテマエにこだわりすぎて融通がきかなかったり、頑固になりやすい。考えにあわなとと相手攻撃すること。	おっとりしている／融通がきく。柔軟性がある。批判的ではないので、他人と衝突することや、価値観に振り回されたりイライラすることは少ない。	理想や目標を追求したり、ルールを守るという意識が強いので、けじめがなく無責任ととられることもある。優柔不断で言うべきことが言えないことも。	自分の考えをまとめ、それを主張したり、実行すること。また自分の目標を決めて、周囲に流されずにそれを守り抜くトレーニングなどが役立つ。
	〈思いやる親〉の心 弱者や幼い者に対し、やさしく保護的に接しようとする部分。援助を必要とする人の面倒を親身になって見たり、慰めたり、暖かい言葉をかけたりする。	人間関係をスムーズにする／暖かい／他人のために行動できる／献身的／やさしい／相手を支える／奉仕の精神／弱者をかばう	情にもろいので、よかれと思って本当は相手のためにならないお節介をする多し。情に流されてルールをつい無視すること。	さっぱりしていて、周りから干渉は少ない。情に流されることが少ない。	人の痛みや苦しみに関心が向かないので、冷たい人と思われたいり、人のことに気を配らないので、関係がうまくいかないことも。	相手の立場になって考えることから始める。相手を励ましたり、慰めたり、贈り物をしたり、積極的に相手のために行動を起こしてみよう。
A	〈考える大人〉の心 意志や感情や行動をコントロールする心の中のコンピュータの部分。感情に支配されずに、冷静に事実を観察し、自分や物事を判断する。計画を立てる。	現実をよく見て行動する／理論的に考える／感情に流されない／判断が中立／客観的／自分をコントロールする／落ち着いた	理屈で考えたり行動するのはいいが、時に理屈に走りすぎて、他の感情を軽視したり、打算的になりすぎることも。	変に理屈で割り切ることがない。純朴で、人間味がある。	論理的に考えたり、現状を分析するのが苦手と考えがまとまらなくなりがち。そのため計画を立てたり一貫した行動をするのが苦手と言動が場当たり的になりがち。	何かを言ったり行動する前に、その言動によって起こる影響を一つか二つ考えるくせを付けよう。計画を立てたり、読書で様々な考え方をを知るのも有効。
	〈自由な子ども〉の心 他人や周囲の状況に左右されず、泣きたい時に泣き、笑いたい時に笑う心の働き。行動力の源となる。よくも悪くも感情的・自己中心的・積極的・行動的。	活発／周囲を明るくする／ムードメーカー／ひらめきや創造性が豊か／やる気がある／感情表現が豊か／天真爛漫／直感力がある	衝動的だったりそそっかしい面があるので軽率なミスをしたり、甘く考えて大失敗することもある。無責任やわがままには注意しよう。	おとなしく、落ち着いている。感情におぼれて、衝動的な行動をとることが少ない。	自分を楽しませること、積極的に行動すること、思い切ってやってみることが苦手なので、いろいろな経験をチャンスを逃しがち。無表情に見えるかも。	楽しく毎日を過ごす方法を考えよう。趣味や部活動はその一つ。自分の気持ちをちょっとした勇気を出して表現してみよう。
AC	〈あわせる子ども〉の心 自分の本心をおさえて、周囲の人たちに順応しようとする部分。周りを気にする傾向が強いので、自分から行動する方ではない。従順だがまな強く、協調的。	感情を押さえることができる／慎重で周囲にあわせられる／波風をたてない／協調性があり集団の中でうまくやっけてゆく	周りに気がつかいすぎて消極的になったり依存的になったりして、心のバランスを崩しやすい面あり。我慢強いが限度を超えると不平や敵意が時に爆発。	自主性に富み、自分のペースを守る。積極性がある。	相手の気持ちを察したり、周囲にあわせてたり、がまんするのが苦手。そのため自分勝手と思われて反感をかうことも。	A Cが低い人はAをあげるとよい。A Cが高い人は不快な感情に気付いたら気分転換しよう。また、C P・N P・A・F CのどれかがあがるとA Cは下がる。

※ 特徴は上手に使用すれば長所になりますが、使い方がうまくないと短所となります。そのことから、自分の特徴を理解し、それがもつ長所を発揮するように意識させる指導を行います。

## ② 今の自分の特徴にある低エネルギー箇所を課題にする

### エゴグラムから見た自分の特徴

	本来の働き	この部分が高い人の		この部分が低い人の		この部分を高めるには
		〈にじみ出る長所〉	〈陥りやすいワナ〉	〈にじみ出る長所〉	〈陥りやすいワナ〉	
CP	〈批判的な親〉の心 良心的に行動しようとしたり、理想を追求しようとする部分。規則を守ったり、正しく行動することを、自分自身や周囲の人、あるいは社会に要求する。	理想を追求する／責任感が強い／真面目／良心的／けじめがある／イエス・ノーをはっきり言える／自信がある／押しが強い／すじを通す	タテマエにこだわりすぎて融通がきかなかったり、頑固になりやすい。考えにあわないと相手を攻撃することも。	おっとりしていて融通がきかないので、他人と衝突することや、価値観に振り回されてイライラすることは少ない。	理想や目標を追求したり、ルールを守るという意識がうすいので、けじめがなく無責任ととられることもある。優柔不断で言うべきことが言えないことも。	自分の考えをまとめ、それを主張したり、実行すること。また自分の目標を決めて、周囲に流されずにそれを守り抜くトレーニングなどが役立つ。
NP	〈思いやる親〉の心 弱者や幼い者に対し、やさしく保護的に接しようとする部分。援助を必要とする人の面倒を親身になって見たり、慰めたり、暖かい言葉をかけたりする。	人間関係をスムーズにする／暖かい／他人のために行動できる／献身的／やさしい／相手を支える／奉仕の精神／弱者をかばう	情にもろいので、よかれと思って本当は相手のためにならないお節介をする事多し。情に流されてルールをつい無視することも。	さっぱりしていて、周りにならない干渉はしない。情に流されることが少ない。	人の痛みや苦しみに関心が向かないので、冷たい人と思われたり、人のことに気を配らないので、関係がうまくいかないことも。	相手の立場になって考えることから始める。相手を励ましたり、慰めたり、贈り物をしたり、積極的に相手のために行動を起こすよう。
A	〈考える大人〉の心 意志や感情や行動をコントロールする心の中のコンピュータの部分。感情に支配されずに、冷静に事実を観察し、自分や物事を判断する。計画を立てる。	現実をよく見て行動する／理論的に考える／感情に流されない／判断が中立で客観的／自分をコントロールする／落ち着いた	理屈で考えたり行動するのはいいが、時に理屈に走りすぎて、人の感情を軽視したり、打算的になりすぎることがある。	変に理屈で割り切ることがない。純朴で、人間味がある。	論理的に考えたり、現状を分析するのが苦手で考えがまとまらなことがち。そのため計画を立てたり、貫いた行動をするのが苦手で行動が場当たり的になりがち。	何かを言った行動する前に、その言動によって起こる影響を一つか二つ考えさせを付けよう。計画を立てたり、読書で様々な考え方を知るのも有効。
FC	〈自由な子ども〉の心 他人や周囲の状況に左右されず、泣きたい時に泣き、笑いたい時に笑う心の働き。行動力の源となる。よくも悪くも感情的・自己中心的・積極的・行動的。	活発／周囲を明るくするムードメーカー／ひらめきや創造性が豊か／やる気がある／感情表現が豊か／天真爛漫／直感力がある	衝動的だったりそそっかしい面があるので軽率なミスをしたり、甘く考えて大失敗することもある。無責任やわがままには注意しよう。	おとなしく、落ち着いている。感情におぼれて、衝動的な行動をとることが少ない。	自分を楽しませること、積極的に行動すること、思い切ってやってみることが苦手なので、いろいろな経験をチャンスを逃しがち。無表情に見えるかも。	楽しく毎日を過ごす方法を考えよう。趣味や部活動はその一つ。自分の気持ちをちょっとした勇気を出して表現してみよう。
AC	〈あわせる子ども〉の心 自分の本心をおさえて、周囲の人たちに順応しようとする部分。周りを気にする傾向が強いので、自分から行動する方ではない。従順だがまん強く、協調的。	感情を押さえることができる／慎重で周囲にあわせられる／波風をたてない／協調性があり集団の中でうまくやってゆく	周りに気がつかいすぎて消極的になったり依存的になったりして、心のバランスを崩しやすいため。我慢強いが限度を超えると不平や敵意が時に爆発。	自主性に富み、自分のペースを守る。積極性がある。	相手の気持ちを察したり、周囲にあわせたり、がまんするのが苦手。そのため自分勝手と思われて反感をかうことも。	A Cが低い人はAをあげるとよい。A Cが高い人は不快な感情に気付いたら気分転換しよう。また、C P・N P・A・F CのどれかがあがるとA Cは下がる。

※ 低い部分が短所となっている場合、その部分を高めることで短所を消していくことも有効です。そのため、それを高める方法を自分で思考し、意識して生活するように指導します。

### ③ 今の自分と理想の自分の違いを認識する

#### エゴグラムから見た自分の特徴

本来の働き	この部分が高い人の		この部分が低い人の		この部分を高めるには
	〈にじみ出る長所〉	〈陥りやすいワナ〉	〈にじみ出る長所〉	〈陥りやすいワナ〉	
<b>CP</b> 〈批判的な親〉の心 良心的に行動しようとしたり、理想を追求しようとする部分。規則を守ったり、正しく行動することを、自分自身や周囲の人、あるいは社会に要求する。	理想を追求する／責任感が強い／真面目／良心的／けじめがある／イエス・ノーをはっきり言える／自信がある／押しが強い／通す	タマエにこだわりすぎて融通がきかなかったり、頑固になりやすい。考えにあわないと相手を攻撃することも。	むどりしていて融通がきく。柔軟性がある。批判的ではないので、他人と衝突することや、価値観に振り回されてイライラすることは少ない。	理想や目標を追求したり、ルールを守るという意識がうすいので、けじめがなく無責任ととられることもある。優柔不断で言うべきことが言えないことも。	自分の考えをまとめ、それを主張したり、実行すること。また自分の目標を決めて、周囲に流されずに守り抜くトレーニングなどが役立つ。
<b>NP</b> 〈思いやる親〉の心 弱者や幼い者に対し、やさしく保護的に接しようとする部分。援助を必要とする人の面倒を親身になって見たり、慰めたり、暖かい言葉をかけたりする。	人間関係をスムーズにする／暖かい／他人のために行動できる／献身的／やさしい／相手を支える／奉仕の精神／弱い者をかばう	情にもろいので、よかれと思って本当は相手のためにならないお節介をする事多し。情に流されてルールをつい無視することもある。	さっぱりしていて、周りにいらぬ干渉はしない。情に流されることが少ない。	人の痛みや苦しみに関心が向かないので、冷たい人と思われたり、人のことに気が配らないので、関係がうまくいかないことも。	相手の立場になって考えることから始める。相手を励ましたり、慰めたり、贈り物をしたり、積極的に相手のために行動を起こしてみよう。
<b>A</b> 〈考える大人〉の心 意志や感情や行動をコントロールする心の中のコンピュータの部分。感情に支配されずに、冷静に事実を観察し、自分や物事を判断する。計画を立てる。	現実をよく見て行動する／理論的に考える／感情に流されない／判断が中立で客観的／自分をコントロールする／落ち着いている	理屈で考えたり行動するのはいいが、時に理屈に走りすぎて、人の感情を軽視したり、打算的になりすぎることも。	変に理屈で割り切ることがない。純朴で、人間味がある。	論理的に考えたり、現状を分析するのが苦手な考えがまともにならないうち。そのため計画を立てたり一貫した言動をするのが苦手で言動が場当たり的になりがち。	何かを言ったり行動する前に、その言動によって起こる影響を一つか二つ考えるくせを付けよう。計画を立てたり、読書で様々な考え方を知るのも有効。
<b>FC</b> 〈自由な子ども〉の心 他人や周囲の状況に左右されず、泣きたい時に泣き、笑いたい時に笑う心の働き。行動力の源となる。よくも悪くも感情的・自己中心的・積極的・行動的。	活発／周囲を明るくするムードメーカー／ひらめきや創造性が豊か／やる気がある／感情表現が豊か／天真爛漫／直感力がある	衝動的だったりそそっかしい面があるので軽率なミスをしたり、甘く考えて大失敗することもある。無責任やわがままには注意しよう。	おとなしく、落ち着いている。感情におぼれて、衝動的な行動をとることが少ない。	自分を楽しませること、積極的に行動すること、思い切ってやってみることが苦手なので、いろいろな経験をチャンスを逃しがち。無表情に見えるかも。	楽しく毎日を過ごす方法を考えよう。趣味や部活動はその一つ。自分の気持ちをちょっとした勇気を出して表現してみよう。
<b>AC</b> 〈あわせる子ども〉の心 自分の本心をおさえて、周囲の人たちに順応しようとする部分。周りを気にする傾向が強いので、自分から行動する方ではない。従順がまん強く、協調的。	感情を押さえることができる／慎重で周囲にあわせられる／波風をたてない／協調性があり集団の中でうまくやってゆく	周りに気をつかひすぎて消極的になったり依存的になったりして、心のバランスを崩しやすいため。我慢強いが限度を超えると不平や敵意が時に爆発。	自主性に富み、自分のペースを守る。積極性がある。	相手の気持ちを察したり、周囲にあわせたり、がまんするのが苦手。そのため自分勝手と思われて反感をかうことも。	A Cが低い人はAをあげるとよい。A Cが高い人は不快な感情に気付いたら気分転換しよう。また、C P・N P・A・F CのどれかがあがるとA Cは下がる。

※ 現在の問題が生じているのは、理想の自分として振る舞えていないことにも原因があると考え、現実と理想のギャップを埋める方法を自分で思考し、意識して生活するように指導します。

上記の①～③のスライドにある3つの取組により、自分は何をすれば、もっと成長できるのかが、見えてきますね。

是非、無理のない範囲の簡単なことで良いので、毎日、継続的に、それに複数の取組に挑戦してみてください。

その行動目標が出来たか、出来なかったかを毎日、点検しましょう。

そのためのチェックリストを次のスライドに参考としてのせました。できたら○、できなかったら×をつけて、楽しみましょう。

この様にして、自分の成長を夢・希望に変えて楽しむようにエゴグラムを活用することが、自己調整能力の育成につながりますし、それは、すなわち自立に向かうことでもありますね。



## 4-3 生徒理解に向けたアセスメント・ツール活用

- 支援の必要そうな生徒の発見（スクリーニング会議）  
※校内の情報共有  
↓
- ケース会議  
※情報に基づくアセスメント  
アセス・B-SAFE  
「学校の姿」と「家庭の姿」の比較(相違点)  
↓
- 生徒の理解を一層深める
- チーム学校としてより多くの情報での的確なアセスメントへ
- 背景を踏まえた個別の生徒支援策の作成  
↓
- 教育で生徒のWell-beingをチーム学校で目指す

次に、生徒のアセスメントツールとしてエゴグラムを活用する方法を説明します。

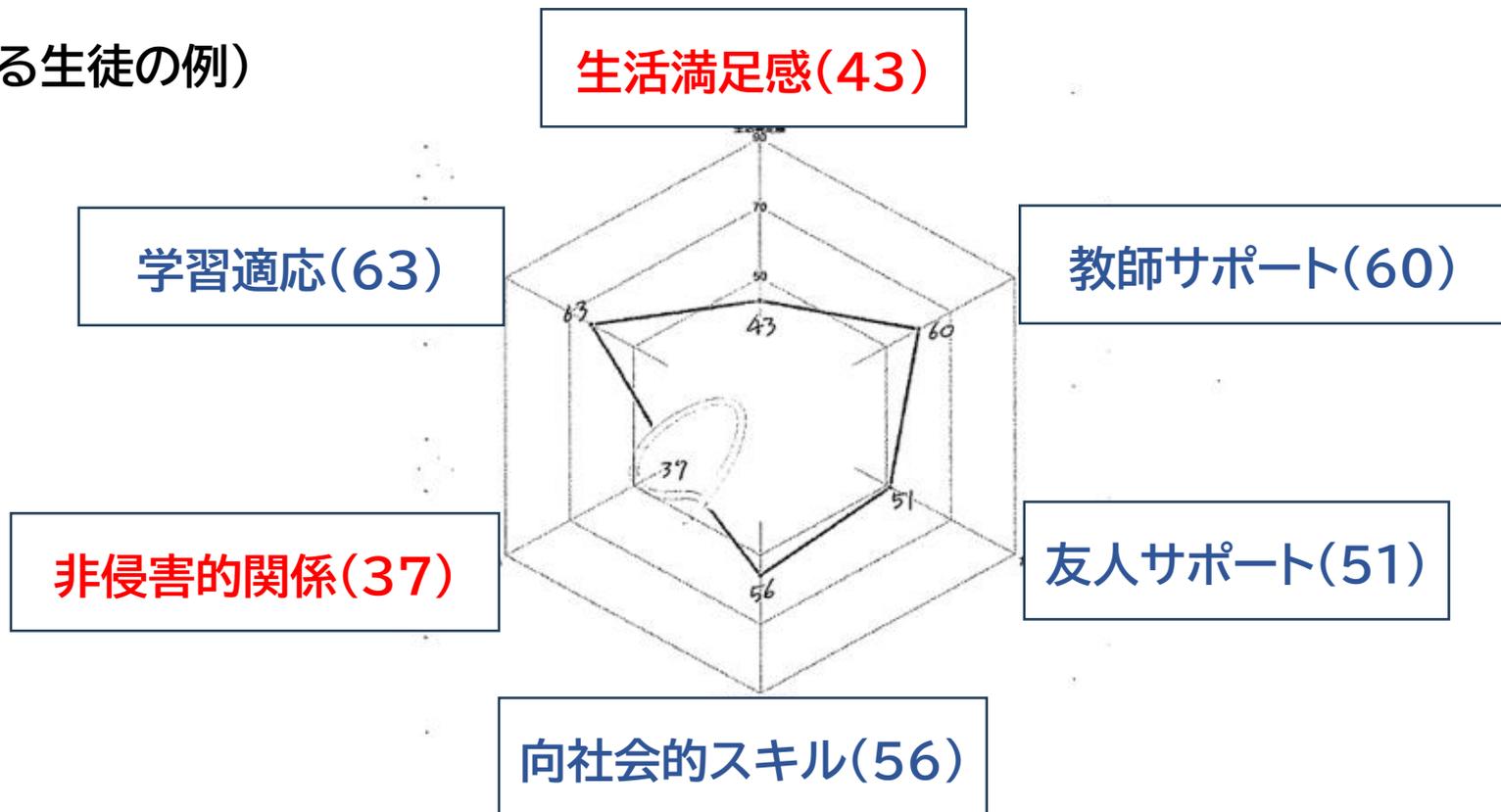
本校では、生徒一人ひとりを伸ばし輝かせるために、アセスメントに基づく教育を大切にしていますが、そのツールとして、本年度より「アセス・B - S A F E」を用いています。  
(ちなみに、各々年3回実施で2つのセット価格が1100円/人です。)

そのアセスメントの精度を更に高める補助的なツールとして考えているのが「エゴグラムS H E」です。

その内容について紹介します。

# アセスの結果とつないで生徒を理解する

(ある生徒の例)



(分析)

この生徒は、先生が自分のことをしっかりとサポートしてくれていると感じている。  
また、学校の勉強(学習)もうまくいけているも感じている。  
加えて、自分は人との関わりをきちんとやっていると思っている。  
しかし、それにも関わらず、校内の人間関係にいじめられ感ともいえる被害者意識を感じ、生活全体の満足感が低下している(と思われる。)

# 「学校の自分(左)」と「家庭の自分(右)」を回答する。

※本校の研修ではエゴグラム・チェックリストを提示しましたが、必要な方は、各自で書籍を購入して情報を入力してください。

書籍「自尊感情を育てる『エゴグラムSHE』活用ガイド」  
( 著者 日本交流分析協会付属 TA学校教育心の開発研究所 )

# 結果をグラフ化

※本校の研修ではエゴグラム・パターンを記す用紙を提示しましたが、必要な方は、各自で書籍を購入して情報を入手してください。

書籍「自尊感情を育てる『エゴグラムSHE』活用ガイド」  
( 著者 日本交流分析協会付属 TA学校教育心の開発研究所 )

- ※ このシートは、学校の様子と家庭の様子に分けて、自動で作成される。
- ※ 各自我の四角枠は標準偏差を示し、その内であれば全国的に標準的な生徒とも言える。  
(このシートは、男性用と女性用の別がある。)
- ※ 四角枠から外れる場合は、その生徒の強い特徴ともいえる。
- ※ 学校と家庭で大きく違うところがあれば、その背景は考えるに値する。

# エゴグラムのグラフを読み取り、背景を推測する

※本校の研修ではエゴグラム・パターンを記す用紙を提示しましたが、必要な方は、各自で書籍を購入して情報を入手してください。

書籍「自尊感情を育てる『エゴグラムSHE』活用ガイド」  
( 著者 日本交流分析協会付属 TA学校教育心の開発研究所 )

(分析)

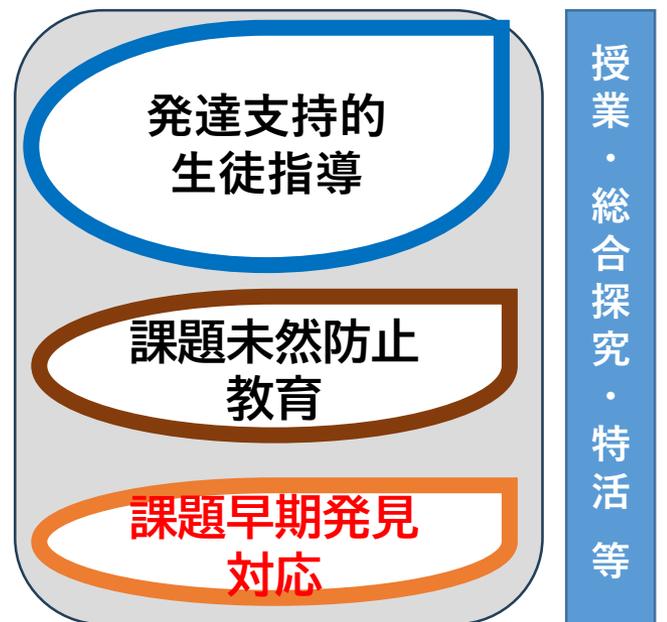
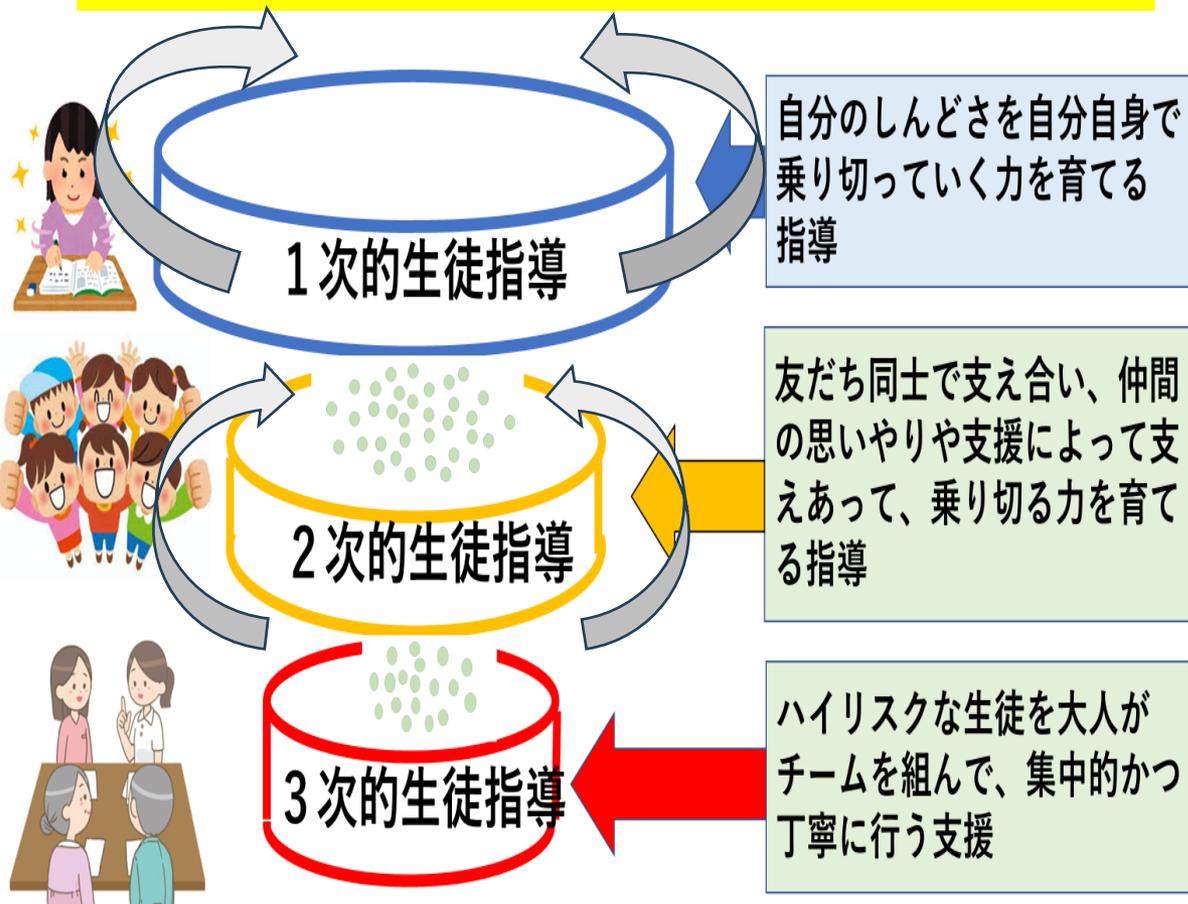
この生徒はもともとの物事を考えてながら動けるタイプと思われる ( sA & hA )。  
その特徴は学校では一層強く発揮され、いろいろと考えながら現実適応を図ろうとかなり(無理して?)努力していることが伺える(sA)。

また、sACの高さからは、家庭と違う自分を学校内で演じ、人に合わせて周囲の期待に応えようと、かなり努力していることも伺える。

この状態が長く続くと、相当しんどくなるのでは……と感じられる。

# 5 生徒指導の大切さ

## 1次的・2次的・3次的生徒指導



授業・総合探究・特活等



本校には、ひょっとしたら中学校時代は「先生からの手厚いサポートで支えられてきた」という3次的生徒指導中心の生徒もいるのではないのでしょうか？

それはそれで幸せなことで、感謝しましょう。

その上で、本校では、高校生として卒業後の自立に向けて、仲間の力を活かしての2次生徒指導を行うことを基本的には考えていきたいと思えます。

また、その延長線上に1次的生徒指導も出来るはずと考えています。

それが本校のグラデュエーション・ポリシーで目指す生徒を「自立」させる教育実践につながると考えます。

このことをイメージしながら、次に示す本校のカリキュラム・ポリシーを眺めてみてください。

# 本校のカリキュラム・ポリシーを意識し、学校全体で下からの積み上げへ

## ■ Curriculum Policy (教育課程の編成及び実施に関する方針)

本校では生徒の発達、成長を考慮し、下のStep1からStep6までを積み上げて、資質・能力を育みます。

### Step6 自己決定する機会

生徒一人一人が、当事者意識を持って物事を捉え、自ら考え、判断し、自己決定していく経験を積むように教育活動を展開します。

### Step5 教育資源有効活用

生徒一人一人が、自己を取り巻く教育資源を正しく理解し、それらの有効活用を考え、自らの目標を達成できるよう促します。

### Step4 P D C Aサイクル

生徒一人一人が、各々の活動に目的と目標を見出し、その達成に向け考え、実行し、振り返り、自己成長に繋げる指導を行います。

### Step3 学びの価値の実感

生徒一人一人が、学びを楽しみ、学びが自分の可能性を広げていると実感し、好奇心を高め、主体的に取り組める授業を行います。

### Step2 自己存在感の感受

生徒一人一人が、自己理解・他者理解を深め、豊かな情緒的交流により自分の存在価値を実感するような教育活動を展開します。

### Step1 安全・安心な空間

生徒一人一人が、自他を尊重し、お互いの多様な個性を認め合う関係を育み、安全・安心な空間で学習できるように取り組みます。

本校では、生徒の発達・成長を考慮し、下のStep1からStep6までを積み上げて、資質・能力を育んでいきます。

「仲間の力を活かす」という2次的生徒指導の考え方と、本校のStep 1～Step 2の考え方は似てませんか？

この取組により、生徒の非認知能力を伸ばし、それらの育成を授業で取り組めば「主体的・対話的で深い学び」も上手くいくはずと、期待しています。

また、そのことが「楽しい学校風土」を育んでいくものと信じております。

# 6 最後に

## ■ Graduation Policy (育成を目指す資質・能力に関する方針)

本校ではこれから到来する変化の激しい時代においてもWell-beingな生き方を持続可能にする人材育成を目指して次の5つの力を育みます。

01

### 精神的な自立

自分に向き合っ、自分で自分を成長させていける力を育みます。

02

### 社会的な自立

当事者意識を持ち、より良い社会づくりに取り組む力を育みます。

03

### 経済的な自立

将来の経済的基盤を確保できる職業人に必要な準備力を育みます。

04

### 希望への輝き

夢と希望の達成に向けて、粘り強く取り組んでいく力を育みます。

05

### ゆたかな情操

他者への思いやりと敬意を基本に、他者とかかわる力を育みます。



ランチキャンパス (2年)



高校生には、夢や目標に向かって、希望を持って輝いて欲しいです。

そして仲間と支え合う豊かな情操（非認知能力）も育んで欲しいです。

それに本気で取り組めば、そのとき、必ず子供には①精神的な自立、②社会的な自立、③経済的な自立の芽がふくらみ、社会で開花するものと信じています。

それが、本校のグラデュエーション・ポリシーの考え方になります。